

## 義務教育課だより 11月号

### 「燈火可親」 ～読書の秋に寄せて～

街路のイチョウが色づきはじめ、「読書の秋」にふさわしい時季となりました。読書は、多くの語彙や多様な表現を通して様々な世界に触れることができるとともに、疑似的に体験したり知識を獲得したりして、新たな考え方に出会うことも可能にしてくれます。言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにすることができる読書は、成長期にある子供にとって、脳や心を鍛える効果をもたらします。

本年4月の「学校教育に関する調査（義務教育課）」によると、愛媛県内で全校一斉の読書活動を実施している学校の割合は、小学校 97.8%、中学校 92.9%となっており、ほとんどの小中学校で子供たちに読書活動の機会が設けられていることが分かります。県内のある小学校では、読んだ本の1ページを1点に換算し、ひと月の合計が1万点に達した子供を表彰する「一万点読書」に取り組んでいます。文部科学省の調査を分析した「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書（令和元年3月）」によると、「本を読むことを褒められた経験があると、よく本を読むようになる」という結果が報告されています。「一万点読書」の他にも、子供の読書活動を認め、読書を愛好する心と態度を培う取組については、次のとおり様々なものがあります。

#### 「読書貯金記録賞表彰」

学校や家で読んだ本や読み聞かせで聞いた本等を記録し、年間目標冊数を達成した子供を表彰する。

#### 「本の帯コンクール」

お気に入りの一冊を選び「本の帯」を創作する。投票によって選ばれた上位作品は、書店や図書館に展示される。また、地域の書店の協力を得て「〇〇書店賞」として表彰を行う。

#### 「味見読書」

国語科等の時間に図書の試し読みをし、深く読みたい本を選び友達に紹介する。

#### 「図書館検定」

図書館の使い方や本の分類に関する検定を行う。合格者には、通常よりプラス2冊貸出し可とする。

#### 「ファーストブック」

卒業時に、その子供が入学して初めて借りた本の書名や在学中の読書冊数等をカードにしてプレゼントする。

#### 「ブッククロッシング」

図書館で廃棄となる本や教員や保護者等から寄付された本を活用し、子供が自由に手に取り、持っていくことができるブッククロッシングコーナーを廊下に設置する。

このように、子供の取組を賞揚するとともに、友達と読書の楽しさを共有する機会の充実やより身近に本に触れることができる環境の工夫など、多くの実践が行われています。

コロナウイルス感染対策等で、学校行事や通常の授業等、様々な面で検討や変更を余儀なくされている今だからこそ、制約されることなく楽しめる読書のよさを子供たち自身が味わえる取組を推進していただきたいと思います。

先生方も、秋の夜長に素敵な本と出会えますように。